



天満宮

題字／後西天皇御宸筆



季刊 秋号

平成26年10月
Vol.4

特集

◆ 千百二十五年半萬燈祭に向けて 平成の大改修

◆ 「史跡御土居のもみじ苑」公開

宝物殿特別展「よみがえる天神信仰 北野天満宮の宝物」

— 国宝・重要文化財の数々 — 開催

北野天満宮の由来

当宮は御祭神に菅原道真公（菅公）をお祀りした全国天満宮・天神社約一万二千社の宗祀（総本社）の神社です。

天神信仰発祥の社として今から千年余り前の村上天皇天暦元年（九四七）六月九日、御神託により平安京の乾の地にあたる北野に御鎮座致しました。

天徳三年（九五九）右大臣藤原師輔卿が御社殿を造営、一條天皇により北野祭は官祭に与り、「北野天満宮天神」の神号を賜り、さらに朝廷・皇室の崇敬を受け二十二社に加列、臣下として初めて官幣中社に列格され国家鎮護・皇城鎮護の神として崇められました。

寛弘元年（一〇〇四）、一條天皇がはじめて行幸されるに及び、以来歴代天皇の行幸も二十数度に亘り、將軍家や有力大名の崇敬を受けております。

文道大祖・風月本主と崇められた菅公は、和魂漢才の精神で誠の心を以って学問に勤しまれたことから、学問をはじめ芸能・農耕・厄除け・至誠・冤罪を晴らす神として奉祀されています。

菅公は、千有余年の長い歴史の中で、人々の心の支えとなる神として、各時代の社会構造と相まって篤い崇敬をうけ、庶民・一般に至るまで「天神さま」と呼ばれ親しまれてきました。菅公が生涯一貫された「誠の心」は、日本人の感性として現在にも生きています。

現在の御社殿は慶長十二年（一六〇七）豊臣秀吉公の遺命を受けた豊臣秀頼公の造営で、八棟造という豪壮な建築様式を誇り国宝に指定されています。

菅公の御神霊を祀る北野天満宮は、御墓所・太宰府天満宮と共に全国天満宮の宗祀と称され、日本文化の礎、学問の神・天神信仰として篤く信仰されています。



【シンボルマーク】

平安京の乾（北西）に位置する北野の地・天門をイメージし、星欠けの三光門（三辰信仰）から星梅鉢を北極星と捉えた星の軌道と、神社の象徴である一の鳥居を描き、北野天満宮の信仰的特徴を捉えたマーク。

表紙写真説明 神楽舞「紅わらべ」奉納

8月4日、例祭に巫女4名が初めて神楽舞「紅わらべ」を奉納。平成14年、菅公五歳の御歌「美しや紅の色なる梅の花 あこが顔にもつけたくぞある」に全国天満宮梅風会が元宮内庁楽師の芝祐靖氏に作曲・作舞を依頼し、作られた新しい巫女舞。



ご挨拶

千百二十五年半萬燈祭に向け、『平成の大改修』境内整備について



天神さまゆかりの北野松原の松並木の復元イメージ

この度、平成三十九年に行われる千百二十五年半萬燈祭の折り返し時点として、一昨年より平成の大改修と銘打ち、境内整備工事並びに神徳宣揚、文化発信の諸行事活動を実施致しております。

祭典（一條天皇行幸始祭）の再興、会報『天満宮』の季刊発行、北野教学の発揚として、天満宮の平安京乾の天門の位置づけ、平安京文化ひいては日本文化の礎としての天神信仰の再考・宣揚等を推し進めております。

北野の右近馬場に一夜の中に数千本の松が生じ、その地に神殿を建立し天満天神と崇め奉ったのが北野天満宮鎮座の由来であり、古来より景勝の地でもありました北野松原一帯は、日本の文化史に輝く豊臣秀吉の北野大茶湯の開催、田楽・能・狂言・歌舞伎を始め種々の芸能の場として度々登場しております。

今回の事業として北野松原の景観を再現すべく、参道両側に松を植栽することにより、一の鳥居をくぐり、影向松を拝し、整然と並んだ松並木の参道を進み楼門、御本殿へと新たな雰囲気に向かっていくこととなります。

今後は千百年大萬燈祭に引き続き天満宮講社（千玄室会長）による史跡御土居の整備事業と合せ、境内整備として紅梅殿・末社の移転、牛舎の移転、広場・庭園の整備、さらに神社会館（仮称）の建設等々、順次工事を行っていく予定であり、完成の暁には、境内の様相も一新致し、ご参拝の皆様をお迎え致す所存であります。

ご参拝の皆様には、完成までの間色々ご迷惑、ご不便をおかけ致しますが、ご理解、ご協力をお願い致します。

北野天満宮

宮司 橘 重十九



京都府／京都大学こころの未来研究センター共同企画シンポジウム

ワザとこころ パートⅢ ― 天神信仰と天神の祭り

「天神信仰と天神の祭り」第三回

京都大学名誉教授 上田 正昭



〔巻四〕 船出（部分）

天神祭

大阪の天満宮が何で有名かと言うと、お祭りです。にぎやかなお祭りが行われ、江戸時代に日本三大祭りとして知られていたのは、江戸の神田祭、京都の祇園祭、大阪の天満宮の天神祭。この三つが江戸の三大祭りとなります。

私が注目しているのは、三井財閥の三井です。江戸時代の三井家は、店を江戸と京都と、大阪に持っていました。三井が天神講をつくっているのです。三井家が天神さまを祭る講社をつくっているんです。有力商人の信仰の対象に大阪の天満宮がなっていたことが分かります。

そして菅原道真公のご先祖のふるさととは、最初に申し上げましたように、河内国志紀郡土師ノ里。現在の藤井寺市の土師ノ里でございますが、大阪には天満宮が、道真公の先祖のふるさとの関係もあつて数多く祀られています。

大阪の天神祭を支えている人々は、土地のつながりの地縁の組織ももちろんですが、どこどこ船講という講社もあります。しかしかつては三十八の講社があつたようですが、先ほど寺井宮司さんにお尋ねしたところ、いまは三十三になつていて、ということをお聞きしました。

企業関係の講社が多いんですね。企業組織型の講社が三つある。そして同業業種の皆さんの講社が十社あります。大阪の天神信仰は大阪商人のシンボルとして、江戸時代から育まれてきたということが分かります。

大和魂

先ほど一條天皇に関連しまして『源氏物語』の

お話を致しましたが、『源氏物語』の乙女の巻には、次のような注目すべきことが書かれています。「才をもととしてこそ、大和魂の世に用いらるるかたも強う侍らめ」。素晴らしい言葉です。大和魂という漢字の用語が日本の文献で最初に出てくるのは『源氏物語』です。これは私が確実に調べましたから、間違いありません。戦争中の軍国精神の代名詞としての大和魂ではありません。紫式部の言う大和魂は、日本人としての教養や判断力です。

この『源氏物語』の乙女の巻で、夕霧の学問について紫式部は述べています。私が京都大学にいたころ、よく外国人から日本文化について質問をもらいました。そのときは真つ先に『源氏物語』のその箇所を引いて、和魂漢才が日本文化だと申しました。

紫式部自身が漢詩・漢文学に造詣が深かったことは、例えば『源氏物語』で一八カ所に白居易の詩を引用して、『源氏物語』を書いているのを見ても分かります。『源氏物語』を書いた紫式部は、若いころから中国の古典を深く読んでいた。言い換えるならば、海外からの渡来文化をベースにしてこそ大和魂は強く世の中に働いていく。私はこれが大好きです。

和魂漢才

東京の出版社の、『新潮』という雑誌の取材を受けました。「先生が一番好きな言葉は何ですか」とインタビューをされたときに、この「才をもととしてこそ、大和魂の世に用いらるるかたも強う侍らめ」だと。菅原道真公がまさに和魂漢才の方でした。

才をもとにするとと言っても、何でもかんでも受



け入れるのではないんです。和魂漢才ではからぎえを選択して受容している。

例えば宦官の制度というのがあってしょう。中国でも朝鮮でも。中国のドラマや韓国のドラマが、最近テレビでたくさんやっています。たいがい宮廷・王朝のドラマが、女性から見た怒りを買うような宦官が出てくる。科挙。官吏登用試験。科挙の制度も入れておりません。

平安京

平安京は唐の長安城を模倣したといいますが、でも、これも間違いないですね。長安だけではなく、洛陽も模倣した。それは平安京の坊（町）の名前を調べたら分かります。平安京の坊の名前は、五つが長安の坊名です。

銅駝坊、銅駝中学校というのがありました。銅

駝坊をはじめ八つの坊の名前が、洛陽の町の名前を取っています。そして右京は長安城と呼び、左京は洛陽城と呼びました。

ところがご承知のように、右京は寂れていきま。従って京都の代名詞は洛陽になるのです。左京が中心になりますから。京都に入ることを上洛するとか、入洛する、あるいは洛中洛外と言いますが、京都の代名詞が洛陽だというのは、左京が洛陽であつたからです。

京都府京都市は陝西省の西安市、元の長安と友好都市を結んでおりますが、私は洛陽とも友好都市を京都は結ぶべきだということを、歴代の市長さんに進言しております。

ところが長安も洛陽も、周りに城壁を囲んでいないんです。平城京にもありませんし、平安京にも。どこからでも入れるんです。羅城門はあるんですよ。これは儀式の門ですが。

あるいは律令の定の通りに、「学令」がある。『論語』、『尚書』、『孝経』など、儒教の書を強く勉強するのが必要だということを、都の大学、各地の国学でもしているんです。『孟子』は入っていないんです。

なぜ『孟子』が入っていないのか。『孟子』は易姓革命を説いています。徳のない天子のときに革命を起こすのは当然であるというのを強く強調したから、『孟子』は省いているんです。

和魂漢才は何でも受け入れる



平安京イメージ図

のではない。現在、アメリカの文化、ヨーロッパの文化を、何でも受け入れるのがハイカラさんだと思っっているのはとてもない。本当の和魂漢才は、選択して外国の文化を受け入れる。それを実践されたのが菅原道真であります。



境内に奉納されている和魂漢才の碑

終わりに

私は京都大学の教授のうちに、柘本市長さんに進言をしたものですから、京都には古い学校がたくさんあるが合併でつぶれていく。そういう学校にも貴重な卒業生が寄付した絵画・書・陶芸品などがあります。そこで学校の歴史博物館をつくる必要があるということを申しまして、できたんです。しかし言い出しつべは上田先生じゃないかと。館長をやってもらわなければ駄目だと言われまして、館長を致しまして、いまは画伯の上村淳之さんが二代目館長をしておられますけれども、そのときに調べてみまして、びつくりしたことがあります。

江戸の寺子屋は全て孔子を祭っているんです。ところが江戸時代、京都の寺子屋や、大阪の寺子屋は天満天神を祭っている。なるほどと思いました。道真公の信仰が、なぜこのように多様であつたかということは、私は道真公はまことの和魂漢才の人であつたということを申し上げて講演を終わります。

千百二十五年半萬燈祭に向けて境内整備に着手

天神信仰発祥の地を発信



平成三十九年に斎行される千百二十五年半萬燈祭に向けた境内整備事業がこのほどから始まった。紅梅殿を西広場に移築して、根本縁起といわれる国宝『北野天神縁起絵巻』（承久本）に描かれる紅梅殿別離の場を再現させる庭にするほか、社務所機能を備えた「神社会館」（仮称）の建設、表参道整備など多くの事業が組み込まれている。それによって全国天満宮の総本社・天神信仰発祥の地としての姿を強く発信し、天神信仰の一層の昂揚を図ることにしている。

（一） 靈元天皇、有栖川宮韶仁親王御寄進の石燈籠を中庭に移転 皇室の崇敬の篤さ 参拝者の知る縁に

江戸時代に靈元天皇と有栖川宮韶仁親王から御寄進された石燈籠（ともに一対）が、八月下旬、本殿裏透塀内から本殿前中庭に移転した。本殿裏透塀内では参拝者の目に触れることがなく、広く皇室の崇敬が篤かったことを知ってもらおうと、三十年前まであった元の場所の本殿前へ覆い屋をつけての再移転となった。

靈元天皇は第一百十二代天皇で、石燈籠は天和二年（一六八二）七月二十五日の御寄進。大正六年に石組が修理されている。

同天皇は、歌人・能書家としても知られ、歴代天皇の中でも当宮への御崇敬はことのほか篤く、この石燈籠のほかにも御辰翰を始めとして詩歌の御短冊・般若心経・銅吊燈籠・蒔絵文台、

すずり箱など数多くの御寄進をされている。とくにこの石燈籠は、文道の大祖・風月の本主たる御祭神菅原道真公に対する御敬神の篤さを表すものとして受け継がれてきている。

有栖川宮韶仁親王は、代々学問・芸術への理解が深かった有栖川宮家の七代当主。歴代の有栖川宮親王の多くが当宮へ社参されており、この石燈籠は文政六年（一八二三）十一月二十五日、御神徳に対する御礼と御崇敬の念により御寄進されたと伝えられている。

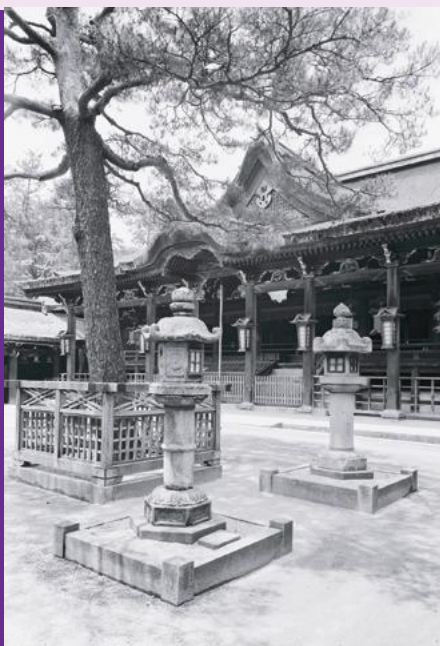


有栖川宮親王石燈籠(左) 靈元天皇石燈籠(右)

◎靈元天皇（れいげんてんのう）

靈元天皇（一六五三～一七三二）は、江戸時代前期の第一二代天皇。「仙洞様」と呼ばれる。永く中断していた踐祚大嘗祭を再興。兄後西天皇より伝授された歌道の達人で、多くの人材を指導、また諸芸に優れ能書家として知られる。

和歌に優れた菅原道真公を祀り、連歌会を催した当北野天満宮には、歌を愛した靈元天皇の宸翰や、金燈籠、香爐など奉納品が数多く伝わっている。



御本殿前の石燈籠（昭和初期）



北野天神縁起絵巻(承久本)より 紅梅殿別離の庭



伝統の曳き家工法によって移築される紅梅殿

◎曲水の宴
庭園の小川の上流から曲がり流されてくる杯を自分の前を過ぎないうちに詩歌を作る平安時代の宮中行事。

そこには小川が流れ、梅の木も描かれているところから、西広場を「紅梅殿別離の庭」として再現し、御神霊をお慰めするとともに様々な文化的行事に活用していくことになった。その中心となるのが紅梅殿であり、解体せずに伝統的な曳き家工法によって、このほど西広場への移築が完了した。広場内の具体的な整備については、今後順次進められる。

なお、これまでの紅梅殿の跡地には四社と七社が移築される。

国宝『北野天神縁起絵巻』(承久本)に描かれた世界を現代に——と、西広場の整備をするこ
とになり、このほどのような一環として紅梅殿を南
百五十メートルの場所へ移築した。周囲には梅
を植樹、小川も流して梅花祭はもとより曲水の
宴など多彩な文化的行事に活用する。

『北野天神縁起絵巻』の巻三には、藤原時平の
讒言によって大宰権帥に左遷されることにな
った菅公が紅梅殿で庭の梅に向かって「東風
吹かば 匂ひおこせよ 梅の花 あるじなしと
て 春を忘るな」の和歌を詠まれ、別れを惜し
む場面が描かれている。

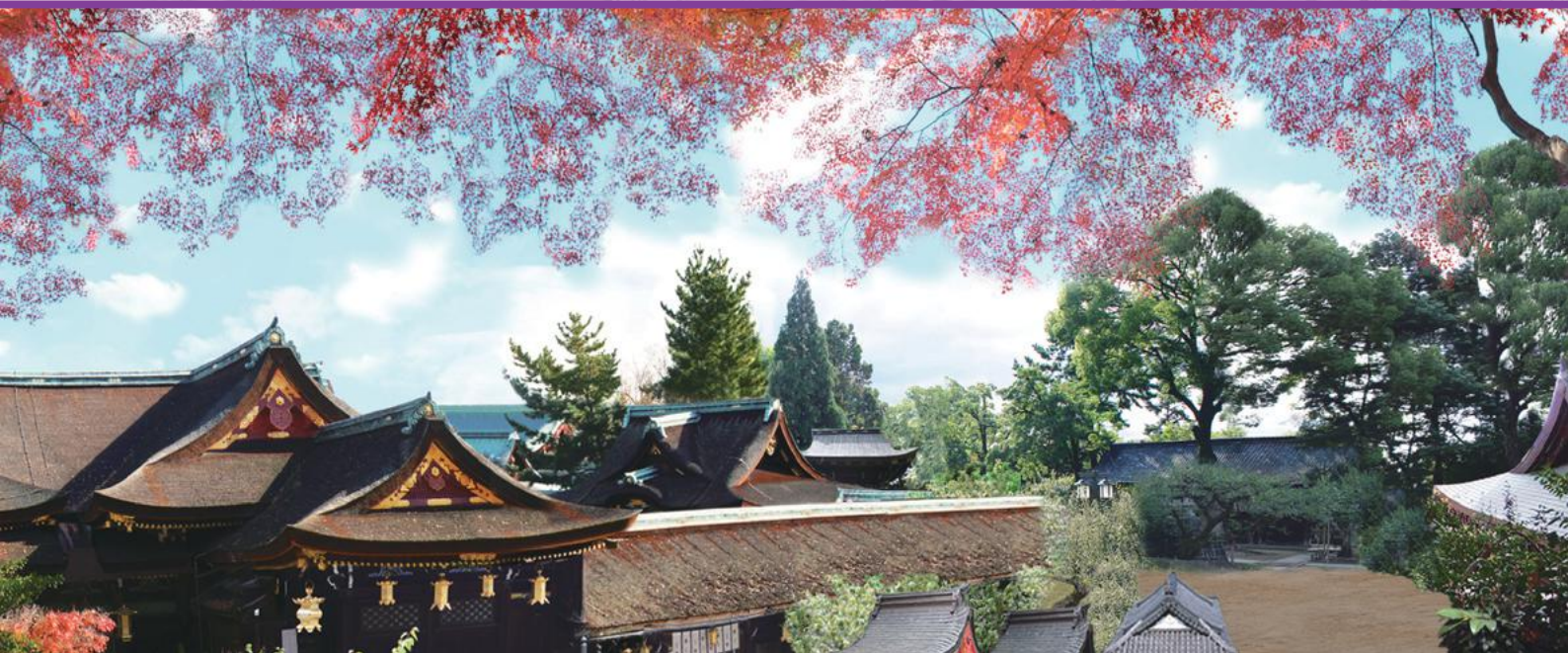


国宝「北野天神縁起絵巻」の世界を現代に 紅梅殿を移築して
西広場を整備—— 曲水の宴など多彩な文化的行事に対応

東風吹かば
匂ひおこせよ
梅の花
あるじなしと
て 春を忘るな



境内西側一帯の整備



国 宝 御 社 殿

紅梅殿

菅原道真公の邸宅を紅梅殿という。

「北野天神縁起絵巻」の別離の段で登場するが、紅梅殿と庭（別離の庭）の復元を計画中である。

絵馬所

大きな扁額絵馬が奉納されている絵馬所。

北野天満宮の絵馬所は秀作が多数あることで有名。

楼門

「文道の大祖 風月の本主」の額が掛かる二層の楼門。六月には京都で一番大きな大茅の輪が、正月には大絵馬が掛けられる。

星欠けの三光門

太陽・月・星の三光の彫刻があるので三光門という。但し、星の彫刻が見られないともいわれ、大極殿の北に位置する天満宮・三光門の上に北極星が輝くので星がなく、星欠けの三光門と呼ばれる。後西天皇御宸筆『天満宮』の勅額を掲げている。

西楽の間

東西に楽の間が付属。

拝殿

本殿と拝殿を石の間で繋いだ特色ある建築様式。

石の間

本殿と拝殿とを連結する石畳の廊下。



表参道を整備、約五十本の松を植樹 「北野の松原」にふさわしい景観に

表参道の整備の一環として参道に約五十本の松を植樹することになった。当宮は梅とともに、菅公の一夜松の託宣や影向松の伝えなど、松とも深い縁があり、かつて「北野の松原」と呼ばれた景観に少しでも近づけていく。

「わが棲まるところは一夜にして千本の松の生ずるところ」という菅公のご託宣があったとされ、『雍州府志』にも「北野右近馬場に一夜千本の松を生ずという。果たしてその言の如し。遂に社を建つ」と記され、末社一夜松社が祀られた由来に触れている。また、一の鳥居をくぐってすぐ右側にある松は影向松（ようこうまつ）とよばれ、毎年初雪が降ると御祭神が降臨され、雪見の歌を詠まれるという伝説があり、天満宮七不思議の一つともなっている。

こうした経緯もあり、古来から北野の地は松原で知られるところとなり、太閤秀吉公が天正の昔催したかの「北野大茶湯」の高札にも「北野松原で開く」旨の文言が使われている。

当宮に残る明治の写真などを見ても今よりはるかに多くの松があったことがわかるが、近年、松喰い虫の被害が目立ち始め、参道の松も年々少なくなっていく傾向にあった。

そこで、当面の措置として参道を中心に約五十本の松を植樹することにしたもので、近々に実施する。



現在の参道の松並木



待望の「神社会館」（仮称）を建設 社務所機能を持ち、多目的ホールも併設

長年の念願であった「神社会館」（仮称）を梅苑内に建設する。老朽化が心配されていた社務所機能も兼ねたもので、多目的に使える会館を目指している。天神信仰発祥の地だけに天神信仰の発信基地として充実した会館とすることにしている。

整備の進んだ史跡御土居より

平安京の天門(乾)に祀られた天神信仰の全景



八棟造(権現造)

御本殿

御祭神をを祀る漆塗りの豪華絢爛たる大規模な御本殿。
慶長十二年豊臣秀頼公造営の桃山時代を代表する国宝建造物。
石の間造・八棟造・権現造とも呼ばれる大規模建造物群。

地主神社

北野天満宮鎮座より百年前、平安京の乾、北野の地に「天神地祇を祀り、遣唐使の派遣」が祈願された。境内では最も古い社である。

老松社

管公の家臣島田忠臣を祀る。当地に松の種を撒くよう託された。

十二社

平安京の御霊神を祀る社。幸せをもたらす善神へと転化した。
中でも櫻葉社は音楽・声楽の神として信仰される。

牛舎

乾天神と呼ばれた北野天満宮。その境内の乾(北西)の隅に古くから信仰されている牛舎。
牛舎・亀石で陰陽一対となっている。



シンボルマークできる

天神信仰発揚のための文化行事に活用

当宮の神紋は梅鉢であるが、それとは別に天神信仰発揚のための文化行事などに活用するためのシンボルマークを作成した。

このシンボルマークは、当宮が平安京の乾(北西)に位置し、天空を司る天神地祇を祀る地・北野に創建されたことを重視、天の力の働く地・天門をイメージして作られた。

星の軌道と捉える円の軌跡の中の前面に一の鳥居を置き、中央に北極星になぞらえた梅鉢紋を配した。



史跡御土居もみじ苑 整備続行

北野天満宮講社(千玄室会長)の力強いご支援によって進められている史跡御土居もみじ苑の整備は今後も続行され、上図(パノラマ図)は現在整備の進む御土居より天神信仰の全景を展望した姿である。

平成十五年から始まった御土居の整備は、同十九年に植林など第一期五年計画の事業が完了し、同年秋から「もみじ苑」が開苑した。その後、茶室「梅交軒」の修繕工事なども行われ、今もお整備が続いている。

「もみじ苑」には、自生しているものと新たに植林されたものを合わせ二五〇本の紅葉があり、豊太閤が築いた御土居のもみじとして、人気を呼んでいる。



神社会館(仮称)イメージ図

鉄筋(地上二階、地下一階)造りながら、木造の雰囲気を取り入れ、周囲の景観に溶け込む建物を計画している。
老朽化している現社務所の機能をこの中に移して充実させるほか、これまでではなかった多目的ホールなどもつくり、文化行事などにも広く活用していく方針。
平成二十九年の完成を見込んでおり、詳しい建物の概容などについては、今後この社報でお知らせする予定である。



天満宮

乾天神の乾・北西に復活

一願成就所 牛舎

北野天満宮 権宮司 加藤 迪夫

◆お牛さん・牛舎―四〇年ぶり
元の乾の位置に移転、復活

昭和四十九年六月に建立され、四〇年の長きに亘り境内の南西隅に祀られて来たお牛さん・牛舎が、元あった境内北西隅、乾（いぬい）の位置に境内整備事業の一環として九月に移転、復活した。

この場所は、北野天満宮が平安京の乾に位置し乾天神と呼ばれ親しまれ、さらにその境内の乾という神聖な地、聖地である。元々本殿の北西隅は江戸時代より一願成就所・乾さんと呼ばれて信仰されてきた場所であり、今回の移転により、新しい牛舎の復活、新たな信仰が始まった。

朱塗りの鳥居が設置され、鈴なりの祈願絵馬が掛けられる絵馬掛け台も数多く設置され、牛舎には早くも多くの学生・受験生等が訪れ、熱い祈りで溢れている。



おうしさま

◆必ず願いの叶う一願成就所

一願成就所、牛舎。乾さんとも呼ばれて親しまれた臥牛の石像が、頭は積年の傷みで少しかけて、台座の御影石に置かれている。牛舎は淳和二年（一八〇二）の九百年祭絵図にも載っている。本社の信仰と共に、願事が必ず叶う「一願成就所」として古くより特別な信仰をうけ、ご利益あらたかな社として、遠方よりの参詣者が絶えない。なお室町時代の「北野社絵図」には、後方に天狗様が描かれており、今も裏手を天狗山と称している。



一願成就所の牛舎



鈴なりに掛けられた祈願絵馬



亀石

◆陰陽石―亀石（かめいし）

牛舎の北側に、柵を巡らし注連縄で囲まれた所に大きな石、亀石がある。牛舎が東西の隅に移された間も乾の隅にそのまま鎮座してきた。牛の石像が陽石を象徴し、亀石は陰石ともいわれ、両方を御参りし御神徳をいただく、陰陽合い和す陰陽石として信仰されており、これは古代信仰の名残りとも云われている。



四神相応図

◆平安京に祀られた乾天神

悠久千年の都、平安京は、桓武天皇の勅命により延暦十三年（七九四）十月、長岡京より山背の国の地に遷都された。「平安楽土」「万代の宮」、この地は、中国から伝わった古代哲学、陰陽道・風水に基づく四神相応の思想に叶った適地である。都の永久の繁栄を願い、災厄から守る鬼門封じの寺社を配置、他方南東・巽には秦氏の守り神であり、衣食住の神と信仰される伏見稻荷が祀られ、北西・乾には新たに乾天神と呼ばれた北野天満宮が祀られた。

北野天満宮の鎮座は、もともと怨霊と呼ばれた菅原道真公の神霊、つまり歴史上の人物に神格を与え、神として祀った新たな神の出現であり、その神威は摂関家の守護神から皇城鎮護の神へと進化し、遂には天神信仰へと発展していったのである。



北野天満宮

大極殿

◆絵馬発祥の地 北野天満宮

―絵馬に入試合格を願う―

北野天満宮は絵馬発祥の神社とも云われている。古来、雨乞いや日乞いのため、神馬を神社に奉納する信仰が各所にあったが、生馬の奉納が難しくなり、かわりに絵に描いた馬、すなわち絵馬が現れてきた。

絵馬という言葉が初めて登場するのは寛弘九年（一〇一二）、大江匡衡が北野天神「色紙絵馬三匹」奉納の記事とされている。つまり北野天満宮は「絵馬発祥の神社」といえる。

絵馬発祥の神社であり、天神信仰発祥の北野天満宮。年間数万枚の入学祈願絵馬が奉納され、また合格御礼の絵馬で賑わう。絵馬に入試受験合格の願いを。



黒馬



白馬

曳馬図絵馬 曾我直庵筆（豊臣秀頼公奉納）二面



北野の光

斎行された祭典・行事

〔七月・九月〕

例祭 皇室の弥栄・国家安泰を祈願

— 当宮巫女が初めて「紅わらべ」奉納 —

国家の祭祀であった北野祭・勅祭ゆかりの当宮例祭が、賢き所より御初穂料・神饌料を賜り八月四日午前九時から本殿で氏子総代を始め神社役員・崇敬者ら多数参列の下、厳かに斎行された。

例祭は、当宮創建の翌年に私祭として始まったが、永延元年（九八七）八月五日、一條天皇の勅使参向・奉幣により勅祭・北野祭となった。約六十年後、この日が母后の国忌に当たるとして一日早い八月四日が北野祭と定められ、今日の例祭となっている。

橘宮司の祝詞奏上に引き続き、当宮巫女四人が

「紅わらべ」を奉納した。この「紅わらべ」は十二年前、全国天満宮梅風会が企画して創られた巫女舞で、菅公が五歳の時に詠まれた御歌「美しや紅の色なる梅の花あこが顔にもつけたくぞある」をもとに元宮内庁楽師の芝祐靖氏が作曲・作舞された。当宮本殿では、六年前の北野天満宮講社大祭と、昨年の一線天皇行幸始祭で大阪天満宮の巫女が奉納しているが、当宮の巫女による奉納は初めて。橘宮司の玉串拝礼に引き続き、参列者の代表が次々と玉串をささげ、皇室の弥栄・国家安泰・五穀豊穰・氏子崇敬者の無病息災を祈願した。



例祭



新茶奉献奉告祭

今年の新茶を神前にお供えし、茶業の発展を祈る新茶奉献奉告祭が七月二十五日午前十一時から本殿で斎行された。

新茶を奉献された宇治・宇治田原・城陽・佐山・京田辺・和束・醍醐・向島・綴喜・山城・南山城などの生産地を始め京都市茶業組合などから約五十人が参列。

祝詞奏上の後、煎茶道賣茶本流の渡邊琢祥家元を始め生産地の代表らが次々玉串を捧げ、茶業の発展と関係者の家内安全を祈願した。



新茶奉献奉告祭



紅 わらへ



「大福梅」の土用干し

正月の縁起もの「大福梅」として使われる梅の実の土用干しが、近畿地方が梅雨明けした翌日の七月二十二日から始まった。

境内にある約千五百本の梅の木から約二・五トンの梅の実が採取され、樽で塩漬けにされていたがこの日

取り出し、神職・職員が最高気温三十四度という猛暑の中でムシロを敷いた乾燥台の上に広げた。

甘酸っぱい梅の香

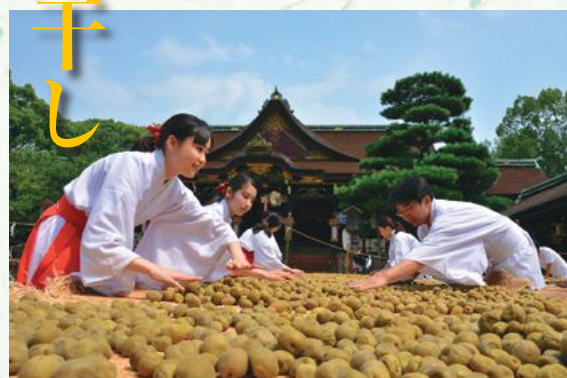
が境内一円に漂い、参拝者が「いい香り」と言いながら、作業

を見つめていた。土

用干しは約一カ月間

で終り、カラカラに

乾燥した梅の実は再び塩漬けにして保存された。



土 用 干 し

貴重な文化財を守れ！

当宮で消防訓練

夏の文化財防火運動の一環として七月十三日午前十時から、本殿東北の透塀屋根付近で出火の想定により消防訓練が行われた。

上京消防署と当宮自衛消防隊・翔鸞学区自主防災会（市民レスキュー隊）・翔鸞消防分団などによる合同の訓練で、約五十人が参加した。発煙筒がたかれ、出火の合図とともに本殿内から宝物類が搬出され、放水銃や消防車による放水も行われる緊迫した訓練となった。

訓練終了後上京消防署の宮林光司署長が、「北野天満宮は国宝の本殿を始め貴重な文化財がたくさんある。それらを火災から守るための合同訓練で、しっかり連携した訓練ができた」と講評。続いて橘宮司が「永年守り継がれてきた文化財を我々の代でなくすわけにはいかない。日ごろからより一層防火に気を配り、こうした訓練を続けていくことが大切だ」と挨拶した。



消 防 訓 練

奉納図画展 子どもの感性あふれる作品一堂に 二百五十三点が入選

夏休み恒例の奉納図画展が八月二十日から三十一日まで本殿前西廻廊で開催され、最終日の三十一日午後三時から本殿で入賞者授賞式が行われた。

同展は、子どもたちが夏休みに描いた図画を神前に奉納し、図画の上達と健やかな成長を祈念する恒例の催し。今年もゼロ歳児から高校生まで七百八十七点の図画が奉納された。

審査は、展覧初日の八月二十日午前中、三輪晃久（日本画家）、伊庭新太郎（洋画家）の両先生と橘宮司で行われ、二百五十三点の入賞が決まった。

奉納図画展



入賞者授賞式に先立ち、奉納奉告祭が入賞者と保護者の参列のもと斎行され、お祓いを受けた後、受賞者の代表が玉串拝礼し、全員が図画の上達と学問の向上を祈った。この後、橘宮司が入賞者に賞状と記念品を手渡した。入賞者は次のみなさん。

【天満宮賞】井口未央（せいしん幼児園三歳）、安部蒼人（同）、田中茉耶（北野幼稚園年中）、多田いつ華（せいしん幼児園四歳）、井上歩美（北野幼稚園年長）、川島大雅（せいしん幼児園五歳）、城臺志門（嵯峨野小一年）、井上翔太（川岡小二年）、北村里帆（ジャルダン美術研究所三年）、富井愛華（嵯峨野小四年）、安達陽菜（梅津小五年）、佐川萌香（嵯峨野小六年）

【京都新聞特別賞】中村円香（嵐山小四年）

【京都新聞賞】井上貴皓（北野保育園年少）、千石雛子（北野幼稚園年少）、山口隼（西山幼稚園年中）、小林煌空（月かげ保育園年中）、荒木朋哉（せいしん幼児園五歳）、白橋

美絆（月かげ保育園年長）、坂口小梅（ジャルダン美術研究所一年）、増田里香（嵯峨野小二年）、森凜奈（同六年）
【上京子供会会長賞】上羽琳歌（せいしん幼児園五歳児）、山下みづほ（下鴨小三年）
【金賞】水谷優仁（幼年）始め七十八人
【銀賞】三浦颯真（幼年）始め百五十一人



親子ふれあい写生大会表彰式

第三十六回親子ふれあい写生大会（上京子ども会育成連絡協議会主催）の入賞者表彰式が七月二十六日午前十時から当宮社務所で行われた。

この写生大会は五月、京都市動物園に児童・保護者ら約六百人が参加して行われ、優秀作品二百点（北野天満宮賞など特別賞は二十一点）を選び、この日まで二週間にわたって本殿前西廻廊に展示された。加藤迪夫権宮司が「夏休み、いろんなことに挑戦し、頑張ってください」と挨拶した。



山峽を流るる川の瀬を速み
淵に淀みて来し方映す
福井県 武曾 豊美
小中のいじめ体験乗りこえて
来たれど人世淵瀬と思ふ
大阪府 村島 麗門
八十路来て長き人生振り向けば
清き川にも淵瀬あるなり
岐阜県 波多野千寿子

一本のバナナに正義問はれつつ
明日の淵瀬にボール蹴り込む
京都府 若狭 静一

淵あれば瀬もある一生さまざまに
瑞穂祭のすずの音さやか
愛知県 仁枝 尚子

流れゆく瓢のごとき我が身かな
恋の淵瀬を浮きつ沈みつ
長岡京市 智野利恵子

都落ち耳目一憂しける身も
住めば都の淵瀬なるかな
東京都 白石 雅彦

淵に瀬にかかる葉屑の身にしあれば
松の二葉となりてゆかまし
京都府 朝比奈栄子

【評】古今集の有名な歌「世の中は何か常なる
飛鳥川昨日の淵ぞ今日は瀬になる」などから、
世の定めないことのたとえ。祭は、うつろう世
と人をつなぐ重要な役割を果たしている。

上京図画展表彰式



御旅所献詠「淵瀬」

ずいき祭 御鎮座の往時をしのぶ

伝統の行列に氏子区域わく 野菜の芸術品「ずいき御輿」も人氣

京都の代表的な秋祭りの一つとして親しまれているずいき祭が、十月一日から五日まで華やかに斎行され、氏子区域の沿道は祭列の巡行にわき、御鳳輦が渡られた御旅所境内や周辺には多くの露店が並び、連日参拝者で賑わった。

ずいき祭の名称は、御祭神が渡られる御旅所にずいき芋など野菜で飾った「ずいき御輿」が奉安されることに由来している。その起源は村上天皇（九四六―九六七年）の御代にあるとされ、中断や曲折を経ながらも明治時代には今の形となり、御鎮座の往時をしのぶとともに秋の実りに感謝する祭りとして親しまれている。

神幸祭の一日午前九時から本殿で菅公の御霊を御鳳輦に遷す出御祭が厳肅に斎行され、午後一時三基の御鳳輦を中心に松鉾・梅鉾・導山・獅子などの

威儀物や八乙女・稚児さらには宮司の乗った馬車・氏子崇敬者ら約三五〇人が供奉する祭列が氏子区域を巡行した。沿道では多くの市民らが祭列を見守った。

御旅所に到着後、着御祭を斎行、八乙女が鈴舞と田舞を奉納した。二日は午前十時から表千家の三木町宣行宗匠による献茶祭、三日は午後三時から西ノ京七保会による特殊神饌「甲御供」の奉饌が執り行われ、六時から神若会北野天神太鼓会による和太鼓の奉納が行われた。

ずいき祭



◆役名 ◆名前		八乙女	童子	水干	半尻	汗衫	袴
後藤 初寧	成田 悠香	木村 優	青山 璃南	青山 愛実	泉 珠以	小山 紗苗	森下 愛子
松下 朋生	井尻 朝陽	青山 彰真	竹内 湜喜	大石 琳敦	川宿田 奏太	北村 柰奈	成田 愛夢
関本 龍之介	石田 寿一郎	北村 慶太朗	畠山 凌一	辻田 巨汰	岡本 宗兼	栗津 諒大	川島 大雅

平成二十六年度
ずいき祭稚児奉仕者名簿



梅風講社 表札看板を奉納

梅風講社（小石原満講社長）が新たに梅風講社表札看板を奉納され、九月二十六日午後三時半から本殿に役員が参列し、奉納奉告祭を斎行した。

参列者を代表して小石原満講社長が玉串をささげ、天神信仰の益々の昂揚と梅風講社の発展を祈願した。

表札看板は、

白木板に「北野天満宮梅風講社」と書き

記したもので、当宮斎館の玄関に掲げられた。

梅風講社



中保町 ずいき祭提灯台の設置

当宮の氏子地域であり、御旅所町内にあたる中京区中保町町内会が九月二十八日早朝より、恒例のずいき祭提灯台設置を行った。

この提灯台はずいき祭斎行に先駆けて毎年行われるもので、今年も町内有志者によって立派に組み立てられた。



十月一日から四日まで御旅商店街入口に設置され、ずいき祭の盛り上げに華を添えた。

ずいき祭提灯台

10月21日 一條天皇行幸始祭

寛弘元年（1004）、一条天皇が始めて北野社に行幸された日に当たり、皇室の弥栄と尊崇・国家国民の安寧を祈念する重儀。当宮創建以来の歴史伝統の再生復興と天神信仰の更なる発揚に繋がる重要な祭儀として斎行する。昨年およそ60年ぶりに「一條天皇行幸始祭」として再興した。



献詠歌披講式

10月29日

余香祭・献詠歌披講式

『重陽後一日』の名詩を作られた菅公をしのび、10月29日、本殿で余香祭が斎行され、引き続き献詠歌披講式が執り行われ、車座の向陽会会員らが独特の節回しで献詠歌を披講する。



11月23日

正月巫女奉仕者研修会

初詣参拝者の応接に当たる正月巫女奉仕者の研修会が11月下旬行われ、100人近い学生が神職から心得の指導を受ける。



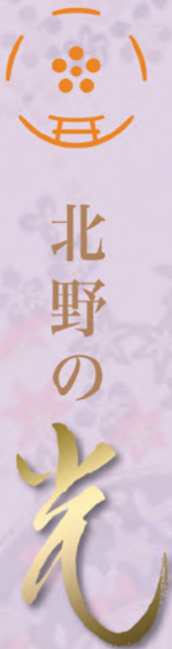
11月23日 新嘗祭

その年に収穫された新穀を神前に供えて豊作に感謝する新嘗祭が11月23日に斎行される。



12月13日 大福梅の授与

正月の縁起物として名高い「大福梅」の調製作業が11月下旬から始まり、事始めの12月13日から授与される。



天満宮のこれから
祭典・行事へ十月〜十二月へ



神前にて献茶される裏千家今日庵家元千宗室宗匠（平成20年）

約400年前の天正15年（1587）の旧暦10月1日に豊臣秀吉公が千利休・今井宗久居士らをして催した「北野大茶之湯」の縁によって毎年行われている大茶会。

現在では毎年11月26日に山城六郷の製茶家である茶師が春に製造した抹茶の原料になる碾茶（てんちゃ）を茶壺に詰めて奉納（御茶壺奉献祭）し、その口切式の行事を行なったものを濃茶・薄茶用にひいて用いる。尚、この献茶は在洛の4家元2宗匠（藪内家・表千家・裏千家・武者小路千家・堀内家・久田家）が輪番で6年目ごとに行うものである。本年は裏千家今日庵家元千宗室宗匠がご奉仕、神前にて献茶式を行う。

当日は、神楽殿に拝服席、社務所広間・奥の間・明月舎・松向軒・上七軒歌舞練場・西方寺に副席が設けられ、絵馬所では菓匠会による飾り菓子が出展され、各地からの参拝者や雅客で賑わう。

©本年お当番／裏千家今日庵 家元 千 宗室宗匠



天正15年 北野大茶湯図

天正15年、茶聖茶祖と崇められた天神様の大前で、太閤秀吉公をはじめ千利休居士・今井宗久居士らほか、徳川家康公や細川三斎公らも名を連ねた大茶会。



御茶壺道中

12月1日

献茶祭

明治11年に再興された献茶祭。使用される茶は毎年、山城六郷の産地から奉献され、在洛の四家元二宗匠の輪番により斎行。

御茶壺奉献祭・口切式から献茶祭へと続く一連の旧儀が残っているのは当宮だけである。



副席（上七軒歌舞練場）



菓匠会協賛席（絵馬所）

11月26日 御茶壺奉献祭・口切式

口切式

献茶祭で使用する抹茶の原料であるてん碾ちゃ茶が11月26日、山城六郷の茶師によって御茶壺道中で奉献され、本殿において奉献祭を斎行した後、献茶祭保存会役員が茶壺の口を切る口切式が執り行われる。



12月31日 大祓

12月31日斎行され、一年間の罪や穢れを託した人形を祓い、清め、清々しい身体で新年を迎える。

12月31日

火之御子社鑽火祭 と火縄授与

12月31日夜、摂社・火之御子社神前で古式によって浄火が鑽りだされ、それによる火縄の授与が行われる。



12月25日 終い天神

12月25日は、今年の縁日を締めくくる終い天神で、多くの露店が並び、正月商品を購入する参拝者でにぎわう。

祭事暦 (10月1日~12月31日)

[10月]

10月1日~5日 ずいき祭

◎ずいき祭祭礼日程

1日 神幸祭

午前9時 出御祭 本社
午後1時 行列出発
午後4時 着御祭 御旅所
八乙女「田舞」「鈴舞」奉納

2日 午前10時

献茶祭 御旅所

表千家宗匠奉仕

3日 午後3時

甲御供奉饌 御旅所

西ノ京七保会による特殊神饌の奉饌

4日 還幸祭

午前10時 出御祭 御旅所

午後1時 行列出発

午後5時 着御祭 本社

5日 午後3時半

后宴祭 本社

八乙女「田舞」奉納

6日 午後4時

名月祭 (豆名月)

15日 午前10時

月次祭

17日 午前10時

神宮祭

午後4時

ずいき祭終了奉告祭

21日 午前10時

一條天皇行幸始祭 (中祭式)

秋季撰末社奉饌

25日 午前9時

月次祭 夕神饌

29日 午後2時

余香祭

[11月]

11月 1日 午前10時

月首祭

3日 午前10時

明治祭

15日 午前10時

月次祭

23日 午前10時

新嘗祭 (大祭式)

25日 午前9時

月次祭

午後4時

夕神饌

26日 午前11時

御茶壺奉献奉告祭

27日 午前10時

摂社和泉殿社例祭

30日 午前10時

赤柏祭

[12月]

12月 1日 午前9時

月首祭

午前10時

献茶祭

13日 午前8時半

大福梅授与

15日 午前10時

月次祭

17日 午前9時

御煤払い

23日 午前10時

天長祭

25日 午前9時

月次祭

午後4時

夕神饌

28日 午前9時

注連縄飾り

31日 午後4時

大祓式

午後7時

除夜祭

午後7時半

鑽火祭

午後10時~午前3時 火縄授与

月釜献茶 (10月1日~12月31日)

[10月]

10月 1日 献茶祭保存会 藤原 宗順 (明月舎)

12日 梅交会 西澤 宗房 (松向軒)

15日 献茶祭保存会 木村 宗光 (明月舎)

松向軒保存会 土本 宗丘 (松向軒)

26日 紫芳会 井田 宗美 (松向軒)

[11月]

11月 1日 献茶祭保存会 常廣 宗真 (明月舎)

9日 梅交会 村岸 宗紫 (松向軒)

15日 献茶祭保存会 松山 宗泉 (明月舎)

松向軒保存会 福田 宗知 (松向軒)

23日 紫芳会 今村 宗幸 (松向軒)

[12月]

12月 1日 献茶祭

14日 梅交会 扶桑会 (松向軒)

15日 献茶祭保存会 休会 (明月舎)

松向軒保存会 奥野 宗富 (松向軒)

28日 紫芳会 休会 (松向軒)

松本市の深志神社

天満宮御鎮座四百年祭斎行

当宮より紅梅・白梅を献木



記念植樹



天満宮御鎮座 400 年大祭

「深志の天神さま」として、信州松本城下南深志の地で篤い信仰を集めている深志神社（長野県松本市、遠藤久芳宮司）の天満宮御鎮座四百年祭が七月二十六・二十七の両日にわたり斎行され、当宮から橘重十九宮司が来賓として参列し、玉串拝礼した。

深志神社は、南北朝時代、信濃国守護・小笠原貞宗公が諏訪明神（宮村宮）を祀ったのが創建とされ、慶長十九年（一六一四）、松本城主・小笠原秀政公が、北野天満宮の御分霊を勧請、宮村宮の隣に並び祀られた。

天満宮ご鎮座四百年祭の祭典は、七月二十六日午前十時から全国天満宮梅風会理事・役員参列のもと斎行され、全国天満宮梅風会会長より祝意が表された。祭典後、橘宮司が来賓を代表し「学都松本の誇りとして今後益々のご発展をお祈りします」と、挨拶した。さらに当宮から四百年祭を祝し贈った紅白の梅を遠藤橘両宮司が記念植樹した。

また、神楽殿での祝い餅投げや神輿渡御、書道パフォーマンス・舞楽・民謡などの奉納行事が行われ、翌二十七日も奉祝奉納行事が賑やかに執り行われた。尚、明年は長野県において深志神社当番による第四十九回全国天満宮梅風会全国総会が開催される。



祝い餅投げ

舞妓はレディ



映画「舞妓はレディ」の監督・主演女優らがヒット御礼参拝！



公開中の映画「舞妓はレディ」の周防正行監督、主演女優の上白石萌音さんが、上七軒歌舞会の芸舞妓七人とともに九月二十四日、当宮へヒット御礼の参拝をした。

一行は本殿前で鈴を振り、二拝二拍手一拝の作法で参拝した。この後、授与所で技芸上達のお守りと祈願絵馬を授かり、境内北西隅の元の場所に帰った牛舎の絵馬掛け所に絵馬を掛け、牛の頭を撫で、亀石を触って映画のさらなるヒットを祈願した。

「舞妓はレディ」は、舞妓を目指す少女の成長を描いた映画で、上七軒は映画の花街のモデルとなった。





第三回

「国宝 北野天神縁起絵巻」を読む

同志社大学文学部教授 竹居明男



幼児詩作の段

道真公、十一歳にして初めて詩を詠む

「幼児詩作」の段

道真公は、早くも五歳の時に、庭の紅梅を眺めて「美しや紅の色なる梅の花、あこが顔にもつけたくぞある」（「あこ」は、道真公の幼名とされる）という和歌を詠じて人々を驚嘆させたと伝えられているが、残念ながら史実としての確証は無い。

これに対し、大宰府左遷以前の詩文を集大成した『菅家文草』の第一巻の巻頭には（以下、漢文の原表記を書き下しに改める）、「時に年十一なり。嚴君（＝父の是善）、田進士（＝島田忠臣）をして試みしめ、予、始めて詩を言ふ。故に篇首に載す」との注記を添えて「月の輝くは晴れたる雪のごとし、梅花は照れる星に似たり、憐れぶべし金鏡の転ぎて、庭上に玉房の響れることを」の五言絶句が据えられている。島田忠臣（八二八～九二二）は、是善の門人で、少年道真の指導にあたり、後には道真公の岳父となった。

同書には、続いて「十有四」歳の作「臘月に独り興ず」と題する七言律詩を収載しているが、以上の二つの作品を基にした絵巻本段の詞書では、「相公の才智にも、ほとく勝り給ひけり。天下に並びなき人におはしましけり」とあるように、父をもしのご道真公の才能が強調されている。

これに対する画面では、左手の畳を敷き詰めた建物の中に、父是善の傍らで、文机に向かって詩作にふける道真公の姿が描かれ、右手の紅白梅の咲き匂う坪庭に沿った簀子縁には三人の人物が配され、その内の一人に文を手渡そうとする庭上の人物も見えている。その他にも何人かの人物の姿が描かれるが、彼らの画面上の意味ないし役割は必ずしも明瞭ではない。

父に代わって「大戒論序」を草する ——「大戒論序執筆」の段

続く場面でも、格子を上げ、妻戸を押し開いた一室にて、白地の直衣姿の是善に対座している、茶色の狩衣姿の道真公が、画面の中心である。ただし公は、硯箱を傍らに、手にした懐紙に染筆している姿であり、その右手の奥には鈍色の僧衣に袈裟を懸けた一人の僧侶の姿も描かれている。この僧侶は誰で、また道真公は何を執筆しているのであろうか。

この段に対応する詞書はかなりの長文で、漢文体の文章も交えているが、話の内容はこうである。

その昔、日本天台宗の開祖・伝教大師最澄が『顕戒論』三巻を執筆し、南都諸寺院の反撃に抗して、やがて比叡山に大乘戒壇の設立を見たにもかかわ

らず、なお紛糾が絶えなかった。これを歎いた慈覚大師円仁が新たに『顕揚大戒論』執筆にとりかかったが、志し半ばにして倒れたため、その遺志を受け継いで『大戒論』を完成したのが安恵（安慧）和尚（七九五〜八六八）である。

やがて安恵が、この書を携えて是善邸を訪問し、その序文の執筆を依頼したのが、直接の発端である。しかし善は、詞書によれば「此の文は朝家の枢機なり、衆生の依拠なり。自らはえ書かじ。」とて、道真公に執筆させることにしたのである。時に貞観八年（八六六）のことで、道真公はまだ二十二歳で文章生の身分であったが、見事、父親の期待に応えて書き上げたのである。

公が、同書の序文を執筆したのは事実であり、先述の作品集『菅家文章』の第七巻に、「貞観八年（八六六）、家君の教へに依り、天台安慧座主の為に製する所なり」との注記を付して全文が収録されている。

一方、この段の詞書では、この序文が、「昨日、今日までも、戒の大小の相論、宗の権実ごんじつの諍しやうひには、天台宗の学者の製作、現人神の筆作なればとて、規模の証拠には出し侍るなれ」との高い評価を得ていることを強調し、序文の一部を原文で引用した上で、さらに末尾を「あはれ目出たき権者の内外の利益りやくかな」と結んでいる。

由来、北野社（北野天満宮）を拠点とする天神信仰の生成・展開と、最澄を開祖とする日本天台宗との関係は深く、縁起中の本段は、その最も顕著な一例と言えよう。

なお本縁起の第一巻は、この段をもつて終わる。



大戒論序執筆の段

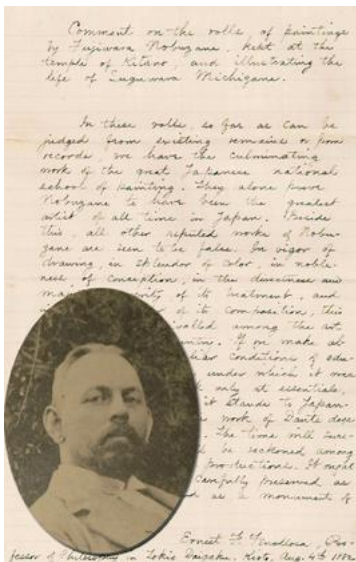


フェノロサも絶賛！
「全世界中の美術上の最貴重物」
『北野天神縁起絵巻』

アメリカ合衆国の東洋美術史家アーネスト・フェノロサ。明治時代日本美術を高く評価、世界に紹介したことで知られる。

当時の日本の美術行政、文化財保護行政に深く関わり、岡倉天心らと同行して近畿地方の古社寺宝物調査を行った。

北野天満宮の『北野天神縁起絵巻』について、「この絵巻物は、ダンテの詩がヨーロッパの文学におけるが如く、全世界中の美術上の最貴重物、希世の宝物」と評価され、天満宮に感激された直筆の評が届けられている。



フェノロサ自筆の評

—「北野西京神人文書」より—

めげよう。

四(糸)てう(坊門)のはうもん

あふらのこうちと

にしんといんどの

あわい、きたのつら

のさかやのむろの
(酒屋)(室)

事、
くはうより

御使御らん候とこ

ろに(毀)こおし申候、

よ(仍)んで(後)このためこ犬如牛、

（応永）廿六年十月三日

おととい十月十一日
(讃岐)

さぬき (花押)

いまよりのちむろ

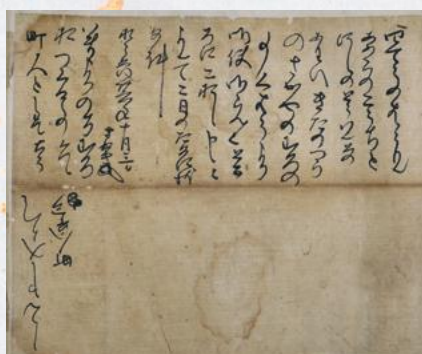
おつくる事候ハ

町人としてちう

しん^進申入候へく候

町人兵へ二郎（略押）

内容は、四条坊門通の油小路通と西洞院通の間の北頬にある酒屋の室について、公方（将軍）より使者が派遣され、検分のうへ毀たれた、よって今後とも室をつく



らないことを約束する、というもので、年号のあとにこの翹室の持ち主である「さぬき（讃岐）」が書判している。そして、それに続いて、その町の世話役である「町人、兵衛二郎」が今後、讃岐が翹室を作るようなことがあれば町人として注進すると保証文言を添えている。

五二人の請文がのこされていることから、当時、少なくとも洛中洛外に五二軒もの麴室のあつたことがわかる。表は、五二軒の麴室の所在を示したものである。この表によれば、酒屋だけでなく土倉にも麴室を持つものがあつたことがわかる。また、麴室の多くは、四条通より南、楊梅小路（五条通の一筋南）より北、高倉通より西、猪熊通より東の下京に集中し、また洛中では

清水周辺にも周密に展開していたところ、当時
の京都の様子の一端を伝える。

京都大学名誉教授

藤井 讓治

【表】
翹室の所在

No	住所
1	五条坊門室町西南頰
2	五条坊門東洞院南東頰
3	四条坊門室町六角の間東頰
4	楊梅高倉東南頰
5	五条坊門烏丸と東洞院の間南頰
6	五条坊門室町綾小路の間西頰
7	四条坊門町西北頰
8	五条坊門油小路高辻の間
9	楊梅町北西の頰
10	楊梅町北西頰
11	五条坊門烏丸南西頰
12	楊梅室町西南頰
13	五条坊門油小路西洞院の間南頰
14	楊梅烏丸南西頰
15	楊梅高倉六条の間南西頰
16	四条大宮東南頰
17	四条坊門油小路西当院の間北頰
18	四条坊門六角の間油小路東頰
19	五条坊門猪熊北西頰
20	四条坊門油小路西南頰
21	二条東洞院北東頰
22	楊梅町六条の間東頰

52	51	50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	30	29	28	27	26	25	24	23
五条坊門猪熊高辻の間西頼	五条坊門堀川南井波頼	四条坊門富小路錦小路の間西頼	清水ねすみとのくら	こなんしのした	清水出口北頼	清水六道の前	清水分田原南頼	清水京極たうのうえ	楊梅東洞院六条の間西頼	転法輪京極西頼	転法輪万里小路東北頼	武者小路出雲路日頼	清水六波羅	武者小路町北頼	武者小路室町北頼	清水主典藏	清水やふの内	清水靈山	千本	清水坂ふか井前	清水きやうかく寺下北頼	四条坊門烏丸南東頼	四条坊門京極東南頼	大とのへ主殿工事西頼北端	大とのへ□内殿西頼	大とのへ正親町西北頼	大内大路北頼	大とのへ大内坊東頼	北櫛笥
酒屋	酒屋	酒屋	一	麴屋	土蔵	一	倉	一	一	酒屋	酒屋	土蔵	酒屋	土蔵	酒屋	一	一	室	一	酒屋	きくや	一	酒屋	土蔵	土蔵	酒屋	土蔵に室なし	酒屋	酒屋

梅風会だより

●全国天満宮梅風会京都府支部総会

平成二十六年年度の全国天満宮梅風会京都府支部（出雲路敬直支部長）の総会・一日研修が九月十九日、奈良県桜井市で開かれた。



四十人（当宮からは四人）が参加し、桜井市の與喜天満神社に正式参拝、真言宗豊山派の総本山長谷寺を拝観した後、総会を開き、平成二十五年年度の活動報告などを承認した。この後、大神神社の自由参拝、三輪の町並みなどを見学した。

氏子講社だより

●理事会開催

氏子講社（中井宗一講社長）の理事会が九月四日午後四時から講社員多数出席のもと社務所で行われ、平成二十五年年度決算報告を了承し、今年の瑞饋祭の巡

行に際しての担当学区や講、巡行路の確認などをした。

席上、約三百本ののぼる「奉祝幟（のぼり）」が氏子崇敬者から奉納されたことが報告された。

奉納

●京都洛中ライオンズクラブがF M時計

京都洛中ライオンズクラブ（長谷川哲也会長）が一の鳥居東側にある石の時計塔に嵌め込むF M時計を奉納され、八月六日午前七時半から本殿に会員約二十人の参列の下、奉納奉告祭を斎行した。

この時計塔は、昭和五十六年、同ライオンズクラブが奉納され、参拝者らに親しまれてきたが、先ごろ嵌め込んだ時計が故障、修理不能となっていた。長谷川会長は「故障し困っておられたので、新しいF M時計を奉納させて頂いた」と、話されていた。

同ライオンズクラブは、平成二十年に結成三十五周年を記念し中庭にある「渡邊綱石灯籠」の覆屋を、また、昨年は結成四十

周年記念として東門鳥居前に狛犬一對を奉納されている。

祭典後、社務所で開かれた早朝例会の席上、橘宮司から長谷川会長に感謝状が手渡された。



ボーイスカウト第八十五団だより

●ボーイ隊とカブ隊の夏キャンプ

ボーイスカウト京都第八十五団（本部・当宮）のボーイ隊の夏キャンプが八月五日から八日まで京丹後市のタカジンランド久美浜オートキャンプ場で十二人が参加して行われた。テントの設営をし、海水浴や釣り・肝試し・天体観測・技能訓練・キャンプファイアーなどを行うとともに連日班会議を開いて団の団結を強めた。

また、カブ隊の夏キャンプは八月八日と九日の両日、近江八幡市の休暇村近江八幡キャンプ場に六人が参加して行われた。



神若会だより

京都府南丹市日吉町胡麻の夏祭りが八月三十日に開催され、天神太鼓会が和太鼓の演奏を行った。平成

十五年に復活した「胡麻の夏」の催しで、今年で十一回目を数える行事。「三宅」「一心」など約十曲を披露し、地元住民の耳を楽しませた。



京都アスニー講演 加藤権宮司

京都市教育委員会の「ゴールデン・エイジ・アカデミー講座」が十月十日、中京区の京都アスニー四階ホールで開催され、加藤迪夫権宮司が「京都人の知らない北野天満宮・天神信仰」と題して講演した。

今回は「紅葉もえる京の名勝」が講演テーマであり、当宮の史跡御土居ともみじ苑、北野天満宮の霊験・由来、平安京と北野天満宮、天神信仰と菅原道真公などの六項目について、丁寧かつ解り易く解説し、およそ七百人もの参加者が耳を傾けた。



講演の様子

天神さん 思い出写真館



今号も明治三十五年（一九〇二）の春に齎行された一千年大萬燈祭の写真集からの一枚である。

写真には「紙屋川堤上貴賓接待所」の写真説明があり、明治三十五年四月二十一日撮影と、珍しく撮影年月日まで書かれている。御土居の上に大萬燈祭のための貴賓接待所が設けられたようだが、どの辺りなのかはわからない。

『千年祭北野会誌』には、「在来の茶室を修理し、そばに茅葺の四阿^{あずま}を建て、茶室と併せてこれを貴賓席となす」とあり、見えている建物が貴賓接待所であろう。さらに「堀立柱大和葺の飯屋を設け、亀屋会本部となす」の文言がある。写真右端の小さな建物に掲げられた幟に「亀屋会」の文字が読み取れ、四人ほどの人物が写っているから、これであろうか？



同誌によると、亀屋会とは、京都市内のお菓子屋さんで亀屋を商号とする十六店で組織されており、一千年祭に協賛し、貴賓はもとより一般参拝者の接待にも応じたい旨の申し入れがあり、土地を貸与したと記されている。

大祭期間中、亀屋会の各会員が大祭にちなんで創ったお菓子を陳列台の上に並べ、各店の主人や店員が交代で接待に当たったという。

天神さんの細道

天神さん七不思議 へそのこ

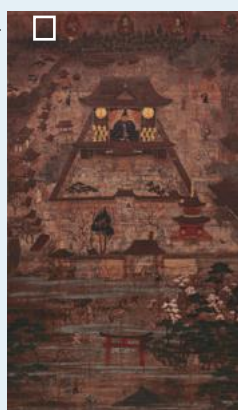
天狗山

天満宮の乾方位、すなわち境内北西の角には、天狗山と呼ばれる小山がある。

室町時代の『北野社絵図』（北野曼荼羅図）にはユーモラスな鳥天狗が描かれている。大昔、この辺りには天狗が出没したかもしれない。

この場所には往古より牛祠が祀られ、一顧成就の祠として信仰を集めている。

北野社絵図



白枠部分拡大図



正式参拝された皆様（敬称略）（八月～十月）



八月 六日（水） 京都洛中ライオンズクラブ
八月二十七日（水） 宝徳稲荷神社
九月 十日（水） 明治神宮巫女研修旅行一行
十月 七日（火） 長良天神神社奉賛会
十月 二十日（月） 白山神社総代方

挙式された皆様（七月～十月）

新郎新婦様、御両家の皆様

末永いご多幸をご祈念申し上げます。

七月 二十日	井上 直樹・麻紗巳	ご夫妻
八月二十四日	北野 隆・尚美	ご夫妻
九月 十三日	西村 亮・雅美	ご夫妻
九月 十五日	中田 雄太・友梨	ご夫妻
九月 十五日	中江 拓哉・麻理子	ご夫妻
九月二十一日	アンドリュース・アランスミス・優子	ご夫妻
十月 十一日	森 匡史・歩	ご夫妻
十月 十一日	岡田 智樹・康子	ご夫妻
十月 十二日	足羽 剛・尚美	ご夫妻
十月 十三日	高田 裕二・セリーヌ	ご夫妻
十月 十八日	高橋 徹・美香	ご夫妻
十月 十八日	山田 圭亮・恵理香	ご夫妻
十月 十九日	西田 喜平次・礼美	ご夫妻
十月 十九日	宮川 信太郎・美保	ご夫妻

献詠

濱崎加奈子選

管公は詩歌に優れ、多くの名歌を詠われました。
室町時代には「和歌の神」と仰がれ、さらに柿本人麻呂と山部赤人と並んで「和歌三神」と称えられています。

七月「夏越」

八月「送り火」

九月「名月」

和歌になほ千年の齡延ぶるなり

唱へてくぐる夏越の茅の輪

大原の築百年の古民家は

クーラー要らず夏を越えなむ

三廻り夏越のはらへ茅の輪くぐり

詣ずる人をつつむ夕風

はや夏越息災なれと思ふわれ

心見すへてただ前を向く

蟬時雨続きし森も静まりて

夏越したれば風も爽やか

初孫と茅の輪くぐれば夏風に

ながき裳裾ぞ翻りたる

パンドラの箱より出でし者たちよ

戻っておいで夏越の夜に

人形に我が罪汚れうつしけり

名越の袂いのり送らむ

左右また左とて夏越の輪

くぐりくぐりて幸祈りたり

目に涼し水無月の菓子

銅風鈴夏越の祓京の風物

水無月の夏越の祓賑はひて

燕するりと茅の輪をくぐる

茅ノ輪もて何を祓ふや幼な子の

幾重にくぐり飽くこともなし

酷熱にかぎろふ白き形代は

おのが穢れの重きにぞ泣く

【評】浄化。人は知らず知らずのうちに罪をおかし、穢れをまとう。これを水に流すのは日本人の思想。水辺の茅を用いるのもそのゆえである。

盆過ぎし電波飛び交ふ世を抜けて

み祖のみたま送り火に去る

旧制の高等学校同窓と

糺杜に送り火見つむ

午歳の観音まつり父母の

光る送り火灯ろう流し

送り火の年に残れる焔をば

手合はせ祈る我橋の上

精霊を送る今宵はうり茄子を

馬に作りて土産持たせる

異国には常に戦火の絶えぬまま

一国平和送り火灯る

盂蘭盆の終りに焚きし蚊遣火に

亡き人送るおもひをぞする

降る雨はあはで別れし涙かな

煙の立ちて霞む送り火

夏の夜に護摩木の炎赤々と

絶えぬ声明五山揺るがす

年の端に送る御霊ぞいや増さる

我が世のかぎり手向けをばせむ

【評】故人を思い手をあわせる時間。送り火に京を訪れた人々も、知らず知らずのうちに祈りを捧げている。火があつた世とこの世をつないでくれる。

天候の極端なるをいかにせむ

旧盆すぎて仰ぐ夕月

父母と我昭和の月を見て育ち

孫三人は平成生まれ

ながつきの名月むかふるもてなしに

なき母作りし兔そなへて

名月の萩の夕べに文芸の

行灯連ね韻事に更ける

銃弾は地上に落ちて名月を

語る人なき国境の町

名月の名歌かず数詠まれけり

月仰ぎ観て何と詠むらん

楽しきも憂ひ惑ひも安らぎも

遙かに照らす月ぞ清かに

むらさきもの心尽くしてもてなさむ

澄みたる天の十五夜の月

嵐山朝は紅葉の大堰川

更けて名月渡月橋かな

かかやける月に桂の墨絵して

たけさやしきひと皆の夜

【評】月は人を物思いへと導く。悲しき時は月に心を寄せて慰み、楽しい時もまた自らの心を月に映す。そうして数々の名歌が生まれたのだろう。



平成27年 兼題

1月	本
2月	頬
3月	桃
4月	花曇
5月	玉
6月	襲
7月	夕風
8月	瓜
9月	待宵
御旅所	芋葉
10月	刈田
余香祭	鹿
11月	凜
12月	祈り

● 献詠奉納についての問い合わせは、北野天満宮献詠係までご連絡ください。

史跡 御土居の 紅葉

北野天満宮は、菅原道真公（菅公）をお祀りした神社の総本社で、天暦元年（九四七）に創建されて以来、「北野の天神さま」と呼ばれ多くの人々に親しまれてきました。

境内西側には、天正十九年（一五九一）豊臣秀吉公が洛中洛外の境界として、また水防のために築いた土塁「御土居」の一部が残り、史跡に指定されています。その史跡御土居には、現在でもかつてからの自然林が残り、四季折々の美しさを感じることが出来ます。なかでも、秋の紅葉は菅公がこよなく愛でられた梅と同様に御緑の樹木で、御土居一帯におよそ二五〇本。

樹齢三五〇年から四〇〇年に及ぶ古木が姿を残し、菅公の御神徳を偲ぶがごとく鮮やかに季節を彩ります。

また、御土居には、かつて紙漉き場であった紙屋川が流れており、赤や黄に見事に染まった木々が水面に映えわたり、見るものを錦秋の世界へと誘います。

◎もみじ苑公開 十一月一日（土）～十二月七日（日）
◎もみじ苑ライトアップ 十一月十五日（土）～十二月七日（日）
◎入場料 大人 六〇〇円・子ども 三〇〇円
◎濃茶席 一人様 二、〇〇〇円（入苑料込）
十一月十五日（土）～十二月七日（日）限定



史跡 御土居の 紅葉

天正十九年（一五九一）。
ときの太閤豊臣秀吉によって築かれ、
今なおその姿を北野に残す史跡 御土居。
悠久の歴史に思いを馳せながら、
菅原道真公も愛した秋の色彩を
心ゆくまで堪能ください。

もみじ苑公開

11 / 1（土）～12 / 7（日）

〔入苑時間〕10:00～16:00

もみじ苑ライトアップ

11 / 15（土）～12 / 7（日）

〔入苑時間〕目没～20:00

全国天満宮の総本社
北野天満宮

〔入苑料〕大人600円・子ども300円
※茶菓子付き（利休居士が考案したと伝わる菓子の姿を再現したお菓子）
〔濃茶席〕お一人様2,000円（入苑料込）
※北野天満宮ゆかりのお道具によりご堪能ください。 ※11/15(土)～12/7(日)限定(濃茶軒茶室にて)

行事案内

11 / 3（月）	13:00	もみじ連歌 京都連歌の会	神楽殿
11 / 15（土）	17:00	日本舞踊 上七軒歌舞会	御土居特設舞台
	18:00	和太鼓奉納 北野天神太鼓会	境内
11 / 22（土）	17:00	アンサンブル 京都三大学合同交響楽団	御土居特設舞台
11 / 23（日）	10:00	新嘗祭	本殿
11 / 24（月）	14:00	露の五郎兵衛碑前祭	中の森石碑前
	15:00	北野天神もみじ寄席 露の五郎兵衛一門	社務所大広間
11 / 25（火）	終日	御縁日	境内一円
	17:00	オカリナ・和歌弾き語り 阿武野逢逢・鈴江先子	御土居特設舞台
	18:00	和太鼓奉納 北野天神太鼓会	神楽殿
11 / 26（水）	10:45	御茶壺行列 御茶壺奉獻奉告祭・口切式	参道・本殿
11 / 29（土）	18:00	和太鼓奉納 北野天神太鼓会	境内
12 / 1（月）	10:00	献茶祭 裏千家今日庵 千宗室宗匠	本殿・茶席各所
12 / 6（土）	18:00	和太鼓奉納 北野天神太鼓会	境内

※都合により急遽変更中止する場合があります。



《特別公開》 よみがえる天神信仰 北野天満宮の宝物

今年九月、当宮所蔵「北野西京神人文書（きたのにしのきょうじにんもんじょ）」が新たに重要文化財に指定されたのを記念し、前期・後期にわかれ十一月一日から宝物殿にて特別展『よみがえる天神信仰 北野天満宮の宝物 国宝・重要文化財の数々』を開催します。

この特別展では、当宮所蔵の国宝「北野天神縁起絵巻」（承久本）のほか、太刀鬼切丸、十三鬼神像、昌俊弁慶相騎図絵馬など、重文十三点を公開。

中でも「北野西京神人文書」は、中世に酒麴生産の独占権を持っていた北野社の神人に伝来してきた文書

● 公開期間
● 拝観料

前期 平成二十六年十一月一日～十二月七日
後期 平成二十七年一月十日～三月下旬（予定）
一般 三〇〇円
中・高生 二五〇円
小人 一五〇円

「北野西京神人文書」新重要文化財指定記念

特別公開

◎重文：十三神像（平安時代）

よみがえる天神信仰 北野天満宮の宝物

国宝・重要文化財の数々
Special Exhibition
National Treasure and Important Cultural Properties

◎重文：昌俊弁慶相騎図絵馬 長谷川等伯筆

◎重文：雲龍図屏風 海北友松筆

◎重文：鬼切丸 純安綱

国宝1点 重文13点 一挙公開

◎国宝：北野天神縁起絵巻 承久本

◎新重文指定：西京神人文書

— 前期 — 11月1日(土) - 12月7日(日)
— 後期 — 1月10日(土) - 3月下旬

— 開館時間：午前9時より午後4時まで —

北野天満宮宝物殿

団体（30名以上）の場合、通常開館日以外でも受付致します。（要予約）
〒602-8386 京都府京都市上京区馬喰町 電話 075-461-0005（代表）
北野天満宮ホームページ <http://www.kitanotenmangu.or.jp>

北野天神もみじ寄席

日本舞踊 上七軒歌舞会

もみじ連歌 京都連歌の会

オカリナ・和歌弾き語り

アンサンブル 京都三大学交響楽団

和太鼓奉納 北野天神太鼓会

もみじ苑行事案内

新年御祝 大福梅の授与



元旦の祝膳に使われる「大福梅」の授与が、今年も事始めの十二月十三日から始まる。「大福梅」は元旦に招福息災の祈りを込め、白湯の中に入れて頂く縁起物で、境内で採取した梅の実を塩漬け、天日干しにして調

製したものに裏白を添え、奉書紙で包み授与する。

これは、平安時代、村上天皇の御代天曆五年(九五二)、都に疫病が流行し、帝自らも病に罹られたが、梅干し入りのお茶を飲まれたところ、たちどころに平癒されたとの故事があり、以来庶民もこれに倣い王服と称して、正月元旦に梅干しを入れたお茶を飲み、一年の無病息災と長寿幸福を願ったと伝えられている。

縁起の良い天神さまの大福梅で幸福な年を迎えましょう。

◆頒布開始／十二月十三日(土)午前八時半より

◆初穂料／一袋五〇〇円(但し、無くなり次第頒布終了)

梅の枝「思いのまま」

来年は元旦からの授与



今年の初天神で約六十年ぶりに復活した招福の梅の枝「思いのまま」を来年は元旦から授与する。

かねてから「剪定された御神木の枝を授与してほしい」との声が崇敬者から強く寄せられており、千五十年大萬燈祭(昭和二十七年)の年に初天神で参拝者に授与していた経緯があったことから、今年の初天神で約六十年ぶりに授与を復活させた。

「思いのまま」には、菅公を偲ぶ梅花祭で神前に供える特殊神饌の調製に用いる厄除けの玄米が入ったヒョウタンを取りつけ、家庭に春の訪れと幸せを呼んでほしいとの願いを込めている。

◆頒布開始／平成二十七年元旦より

◆初穂料／一本一〇〇〇円(但し、無くなり次第頒布終了)

御縁日 境内ライトアップ

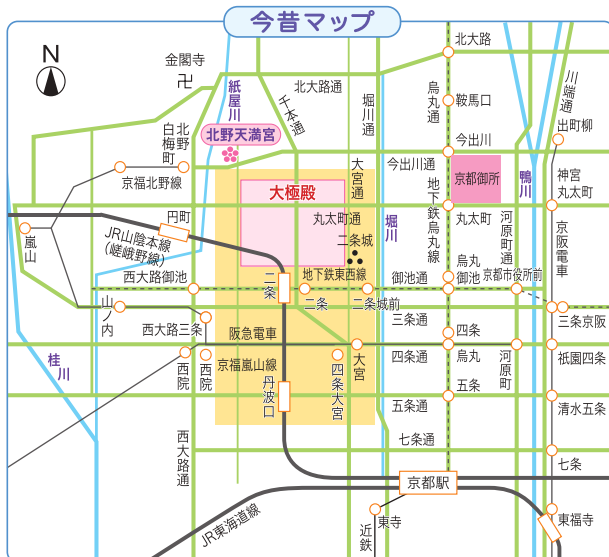


毎月25日は天神さんの御縁日。
夜9時まで境内特別ライトアップ!

定期購読のお知らせ

- 定期購読 1,000円(1年分)
季刊・年4回発行
- 学校・教育機関でお申込みの場合は無料発送。
- お申込み・お問い合わせは、社務所まで。

今昔マップ



平安京

当宮は平安京の乾に位置し、古くより天のエネルギー、パワーの働く北野の地に祀られています。

平安京の内裏、大極殿北西に位置し三光門の真上に北極星が輝き、天子様が北極星を拝する聖なる社でした。

平安京の大極殿(遷都より600年の間)は今の京都御所の西にありました。

紙屋川、堀川に挟まれ、すぐ北西に当宮が建てられています。

- 平安京(大内裏)
- 大極殿(昔の御所)
- 京都御所(現在の御所)

